横浜市小学校社会科研究会

学年部会

研修会記録

第　４　号

令和5年　１０月　４日
横浜市小学校教育研究会
会長　濵田　哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長　加藤　和之
同　学年部長　宮原　美由紀

【提案日時】
９月６日（水）

【会　場】
平沼小

提案　名畑　慧大先生（原小）
司会　益満　順也先生（羽沢小）
記録　田中　晃祐先生（あざみ野第二小）

【指導案検討】

単元名　「食料品をつくる工業～地域とともに成長するM社の取り組み～」

【授業者より】

材について

M社に注目した単元計画（酢や調味料の会社。調味料５品目で日本シェア１。食酢・ほん酢中心に日本の食文化を支えている。）児童は目立つものに注目しがちな傾向。この学習を通して目立たないものも大切にし、児童の自己肯定感を高めていきたいという願い。

児童の実態

児童によって差があるが「材」との心理的距離が遠い。現在行っている稲作の学習は身近なことから熱心に取り組んでいる。話合うときに、より社会的根拠をもとに話せるようにしたい。

単元について

① **食酢やポン酢のシェア**と**学校給食で使用している調味料の表**から、M社が自分たちの給食を支えている事実に気付かせる。→**２２０年企業が続いている事実**から単元を作っていきたい。しかし、より自然な出会いを大切にしたい。

② 稲作の学習で**寿司**を連想する児童が多い→**米（稲作）、魚（漁業）、酢（工業）**の順番で学習すると子供の興味がある「寿司」に繋がってよいと現在は思っている。

困っていること

① **理念や概念を子ども達に話してほしい**と思っているが、知識中心の単元計画になっている→その差を埋めたいと思っている。

② M社は、これからＺＥＮＢプロジェクトに力を入れている→**なぜ、酢の会社がパスタを作っている？**から本気の学習に繋げていきたいが、、、

食酢を材にするとM社の企業理念にはつながるが、、、子どもの関心にどうやって繋げていくのかが課題。

【検討内容】

単元を見通す学習問題

広がりのある課題なのか。続いている理由よりも、食酢がどのように作られているのか？
なぜ、日本１なのか？などでもいいのでは、、、
→本当に子どもが知りたいことなのか？知りたいと思う工夫があるのか。どう興味関心を引いていくかが大切。

M社に注目した根拠について

ZENBプロジェクトをどのように扱って単元をつくるのか。子ども達の疑問「なぜ、調味料で有名な会社がパスタを作る必要があるの？」からつなげたい。また工場の場所を地理的にも良いと感じている。以前は川を使って運搬をしていたが、効率の悪さなどの様々問題から現在の場所に工場を移転させている事実。入れ物の瓶・材料の果実などの関連工業に繋げられると考えている。

ZENBプロジェクトに注目することで、**食酢の勉強との繋がりをより明確にすること**が必要。**３年生との学習との違いを整理すると指導する内容が明確**になる。世界シェアなど資料を見せると良い？

文責　田中　晃祐先生（あざみ野第二小）

【提案日時】 9月　6日（水）	提案　　志村　竜乃介先生（大綱小）
【会　場】 平沼小学校	司会　　呉屋　雄紀先生（師岡小） 記録　　倉方　一樹先生（さちが丘小）

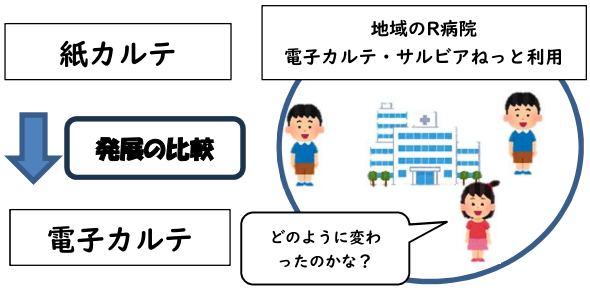
【指導案検討】

単元名「くらしと産業を変える情報通信技術～私たちの健康を支える情報通信技術～」

【提案者より】

R病院が導入している電子カルテや医療機関情報通信技術「サルビアねっと」（都市型医療介護ネットワーク）の活用方法を具体的事例として取り上げ、情報通信技術が自分たちを含む社会全体の生活を支えていることに気付き、産業や国民の立場から多角的に医療産業について学びを深めていく単元。

視点①医療機関の身近な材を活用した社会的事象との出合い



・医療情報の管理が紙カルテから電子カルテに変化したことを比較し、医療機関の情報活用に目を向ける。

・子どもの多くが知っている・利用したことがあるR病院が活用している「サルビアねっと」（都市型医療介護ネットワーク）を材として扱い、疑問や気付きを生み出す⇒心理的距離を縮める、単元を見通す学習問題の成立

視点②社会的事象に対して自分の考えを持ち、語らうための知識の共有

・子どもたちが同じ土台で話し合いが行えるよう児童同士の知識を板書に残す。また、ロイロノートを使用して資料を共有し、社会的事象に対して子どもたちが資料を見ることができるように環境を整備する。

・子どもたちがじっくりと資料を読み、気になる点や分からない点などを不明確にしないまま学習を進める。

【グループ検討】

検討内容

・人の営み、誰の視点（医師・事務局長・サルビアねっと開発者）で調べ学習を進めるか。

・単元全体の流れについて

　・材について（電子カルテ・サルビアねっと・R病院）

　・本気の学習問題について

材・人の営みについて

〇サルビアネット

富士通が開発・管理をしている医療介護ネットワーク。

患者の医療情報や他医療機関や薬局、介護施設などと情報連携し、通院後の情報も共有することができる。

R病院では、サルビアねっとを導入して間もない。また、サルビアねっとに加入している医療機関が神奈川県近郊で多くないなど、材としての懸念材料がある。

〇今回登場する人

実際に活用をしている医師　　サルビアねっとの良さや課題を身近で感じている。
個人情報保護の観点でインタビューが難しい

導入することを決めた事務局長　地域医療の発展を考えている

サルビアねっと開発者（富士通）　地域医療の発展を考えている

サルビアねっとを活用することで院内での電子カルテの共有や関係機関との情報共有・連携がしやすい（社会全体の生活を支えている）。そのような考え・熱意があって、子どもとの心理的距離が近いR病院の事務局長を追っていくのが適しているのではないか。

○単元全体の流れについて

サルビアねっとを軸にして単元計画を考えていきたい。

授業者が示した単元計画
①10月に体育学習でR病院と出会う
②医療産業の情報通信技術について考える（電子カルテ・サルビアねっとに出会う）
③調べる、まとめる
④本気の学習問題

単元を見通す学習問題

R病院はよりよい医療を届けるためにどのようなことをしているのだろう

↓

サルビアねっとの導入

導入前後の様子 | メリットとデメリット | サルビアねっとについて

↓

よりよい医療を届けるために連携している

このような単元の流れ中で子どもたちは本気の学習問題を見つけていけるのではないかと考える。しかし、R病院ではサルビアねっとの導入間もないこともあり、子どもが調べる強度があるかが不安点。R病院ではなく別病院にするとサルビアねっとを導入して2年間近くたっているため、情報が蓄積している可能性がある。

【講師の先生より】

平沼小学校　寺岡 徹 校長先生

・子どもたちが単元の中での学習を通して、「知りたいな！」と思う気持ちを大切にしてほしい。

・学習における材は、子どもたちの追究に堪えうるものである必要がある。材の選定の際に意識できるとよい。

・社会科としての学習が、子どもたちが生きていく激動の社会の変化につながるものであってほしい。

瀬谷さくら小学校　場家 誠 校長先生

・授業を構想していく上で「子どもを見ること」「教材研究をすること」を「ちゃんと」進めていくことが大切。
その「ちゃんと」がどんなことなのか考えていくと、授業が積み重なっていく。

・授業研がせまってきたときにできることは、「本時目標の適切性を追究すること」
本時の目標が先生のやりたいことではなく、
①子どもの学習要求に応えているのか
②単元目標の実現にどうつながるのか
③その本時目標は具体の評価規準や本時の学習活動と整合性がとれているか
の3点を問い続けること

文責　倉方　一樹先生（さちが丘小）

発　杉内　翔太先生（川和小）